駒沢女子大学
大学院
人文科学研究科
臨床心理学専攻（修士課程）
2026

「こころ」に関する精深な専門知識を身につけ
真に豊かな人間生活をいつくしむことのできる
心理のプロフェッショナルを育てます

駒沢女子大学大学院臨床心理学専攻では、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野、その他の幅広い分野で、心理の理論と技法を用いて活躍する人材の育成を目的としています。

本専攻は、特定の専門分野に偏らず、あらゆる分野の専門科目をバランスよく学べるカリキュラムが特長で、公認心理師と臨床心理士の養成に対応しています。実習では、「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」として院生同士のロールプレイや試行カウンセリングを行い、現場での実習に向けて実践力を磨きます。また、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）」では、駒沢学園心理相談センターでの学内実習のほか、教育分野、保健医療分野、福祉分野での学外実習を通して、幅広い臨床力を身につけます。さらに、多様な専門分野・臨床経験を持つ公認心理師・臨床心理士の教員による「臨床心理実習Ⅱ」でのケースカンファレンスなどを通じて、実習先で相談を担当したケースのうち継続事例をもとに院生同士が活発に意見を交換します。豊富な臨床実習体験と、教員からの細やかな個人スーパービジョン、院生同士が事例検討や積極的なディスカッションを重ねて互いに学びを深め合う経験により、人と寄り添う臨床家としてのアイデンティティを形成していきます。さらに適切な修士論文指導を通して、教員との和気藹々の学びと研究研鑽を行っています。

Q&A

1 奨学金はどのようなものがありますか?
大学院の主な奨学金には、「学校法人駒澤学園奨学金」、「日本学生支援機構奨学金」があります。
詳しくは、本学ホームページをご覧ください。
https://www.komajo.ac.jp/uni/campuslife/support_expenses.html

2 学内の心理相談センターでは、どのようなケースを担当できますか?
来談者の年齢や相談内容を踏まえて、大学院生（臨床心理学専攻）の興味・関心に応じたケースを担当することが可能です。
また、各ケースについての指導もしっかりと行います。

3 研究指導の先生はいつ、どのようにして決まりますか?
研究指導の先生は、５月に決まります。
決定するまでに、各先生の研究の紹介を聴く機会が設けられますので、入学後、じっくりと考えて決めることが可能です。

入学者選抜情報

※入学者選抜日程等に関しましては、2026年度入学者選抜要項にてご確認ください。

Ⅰ期

必要書類郵送期間（消印有効）	2025年8月18日（月）～ 8月19日（火）
試験日	2025年8月27日（水）
合格発表日	2025年9月3日（水）

Ⅱ期

必要書類郵送期間（消印有効）	2026年1月16日（金）～ 1月23日（金）
試験日	2026年2月4日（水）
合格発表日	2026年2月10日（火）

OPEN CAMPUS 2025 予約制

大学院オープンキャンパスを開催!

駒沢女子大学大学院の受験を希望する方に、内容を理解していただくためのオープンキャンパスを開催いたします。
詳しくは本学ホームページをご覧ください。

6月15日(日)　7月27日(日)

大学院見学・研究室訪問（予約制）

オープンキャンパスに参加できない方、教員とゆっくりお話ししたい方、普段の様子を見たい方など、どんな目的でも構いません。ぜひ、大学院見学・研究室訪問にお越しください！

申込方法　E-mail:kouhou@komajo.ac.jp

※ご連絡の際は、①希望日時（第三希望まで）、②お名前（フリガナ）、③出身（在籍）大学、④電話番号、⑤お話ししたい教員名と質問、⑥件名「大学院見学・研究室訪問申し込み」をメールでお知らせください。
※担当者より２～３日以内に連絡がない場合は、お手数ですが入試センター（TEL.042-350-7110）までご連絡ください。
※オンラインでの相談を希望の方は、その旨も合わせてご連絡ください。

ACCESS

【小田急バス】
京王線稲城駅より：駅前バスターミナル2番乗り場より小田急バス駒沢学園行き・新百合ヶ丘駅行き・柿生駅北口行きに乗車（所要時間約7分）
小田急線新百合ヶ丘駅より：南口バスターミナル5番乗り場より小田急バス駒沢学園行き・稲城駅行き・稲城市立病院行きに乗車（所要時間約20分）
※いずれも駒沢学園で下車。（駒沢学園入口で下車されないようご注意ください。）

【スクールバス（有料）】
JR南武線稲城長沼駅より：所要時間約14分

【徒歩】
京王線稲城駅より：約20-25分

駒沢女子大学 大学院　人文科学研究科　臨床心理学専攻（修士課程）
〒206-8511 東京都稲城市坂浜238
TEL 042-350-7110　URL https://www.komajo.ac.jp/uni/　E-mail kouhou@komajo.ac.jp

2025年5月発行

駒沢女子大学 大学院
人文科学研究科

臨床心理学専攻（修士課程）

アドミッション・ポリシー

駒沢女子大学大学院人文科学研究科

駒沢女子大学大学院人文科学研究科修士課程は、人文科学の領域における深い学識と研究方法、各専門分野の高度な専門的知識と実践的技能を身につけた上で、それらを社会に活かす意欲のある者を求めています。

臨床心理学専攻

臨床心理学専攻では、以下のような者の入学を認めています。

1.人間が持つ心理的な課題に関心があり、心理学を専門的に深く学びたい者。
2.他者の心理的問題を理解し、解決しようとする思いやりと謙虚さを持ち合わせている者。
3.主体的に課題を発見し、複数の視点から解決の方法を吟味し、実践しようという意欲のある者。

特色

1 多様な36科目を開講 公認心理師と臨床心理士の両受験資格カリキュラムに対応しています

公認心理師と臨床心理士の両受験資格を得たい場合

- 2018年度以降の入学者が公認心理師の受験資格を得るには、卒業した大学（学部）での単位取得科目が国の指定する要件を満たしていることが必要です。
- 本大学院は第1種指定校なので、修了要件を満たせば臨床心理士の受験資格が同時に得られます。
- 学内実習に加え、3分野での学外実習が用意されています。

臨床心理士のみの受験資格を得たい場合

- 学部課程での履修科目は問われません。
- 学内実習に加え、1箇所以上の学外実習が必須です。

2 心理療法の基本原理（洞察、体験、行動、表現） 全てをマスターできる多彩な心理療法特講を揃えています

- 心理療法特講A: 遊戯療法
- 心理療法特講B: 芸術療法
- 心理療法特講C（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）: 認知行動療法
- 心理療法特講D（心理支援に関する理論と実践Ⅲ）: 精神分析的心理療法

3 段階的かつ多面的な臨床体験をもつ実習指導（充実した実習指導と多彩な実習先）を実践しています

1年次	前期	院生同士のロールプレイング					
		院生同士での試行カウンセリング（他大学院との共同プログラム）					
	後期	心理相談センターの運営実習	心理相談センターでの陪席	心理相談センターでのケース担当	心理相談センターにおける地域支援	教育分野での臨床実習	
2年次	前期					保健医療分野での臨床実習	福祉分野での臨床実習
	後期						
		学内実習				学外実習	

公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員による、豊かな臨床的視点からのケース・スーパービジョンが行われます。教員の専門は、認知行動療法、精神分析的心理療法、来談者中心療法、芸術療法、イメージ療法など多方面にわたり、対象も乳幼児から高齢者まで幅広く対応しています。また、今後も学外実習先を新規開拓していく予定です。

学外実習機関（五十音順）

教育分野
稲城市教育センター（教育相談室・教育支援室）、駒沢学園女子中学校・高等学校、さいたま市総合教育相談室

保健医療分野
医療法人社団草思会クボタクリニック・錦糸町クボタクリニック、医療法人社団長生会成木長生病院、医療法人社団碧水会長谷川病院、小田原市立病院心身医療科、クリニック川畑、公益財団法人神経研究所附属晴和病院、特定医療法人研精会稲城台病院

福祉分野
稲城市発達支援センター分室レスポーいなぎ大丸、ウイングこまえ、社会福祉法人日本心身障害児協会島田療育センター、東京都児童相談センター治療指導課

学内実習先

駒沢学園心理相談センター
2003年に本学大学院修士課程に臨床心理学専攻が新設されたのに伴って開設したもので、相談受付兼待合室1室、個別面接室5室、集団面接室1室、遊戯療法室2室からなる本格的な施設です。公認心理師・臨床心理士の資格を有する本学の教員らが相談に応じ、必要に応じて心理検査なども行っています。院生はここで、陪席やスーパービジョンを受けながらケースを担当し、心理臨床の実践力を養っていきます。また、地域に向けたコミュニティ・アプローチなどにも携わっていきます。

4 在学中から修了後まで、充実した教育・研究指導体制

▸**講義**　各々が主体的かつ自発的に課題について調べ、発表し、皆でディスカッションすることで、問題発見力・解決力を高めていきます。

▸**ゼミ**　自発的なテーマ設定をもとに、少人数ゼミで指導教員の細やかな修士論文指導が行われます。

▸**学内・学外実習**　学内実習では、ケース担当前に他大学院との共同プログラムとして試行カウンセリングを行い、実践的な臨床力を身につけます。その後、学内に設置された心理相談センターで、陪席やスーパービジョンを受けながらのケース担当を通して、臨床力の向上を目指します。その他に、地域支援の実習として、心理相談センターが主催する地域に向けたセミナーやプロジェクトの運営にも携わります。学外実習では、複数の分野で長期の実習体験を積むことで、現場での実践力を身につけます。

▸**心理相談センター研修相談員**　修士課程修了後も研修相談員としてセンターのケースを担当し、カンファレンスへの参加や教員からのスーパービジョンを受けられます。また、図書館や学内のデスク、パソコンが引き続き利用できます。

▸**自主勉強会・研修会**　院生や研修相談員、修了生などによる自主的な勉強会・研修会が盛んです（例：心理検査勉強会、資格試験勉強会、公認心理師試験・臨床心理士資格審査合格者報告会、駒沢女子大学臨床心理学研究会など）。

公認心理師試験・臨床心理士資格審査合格者報告会

その年度の公認心理師試験・臨床心理士資格審査に合格した先輩たちが、合格につながる勉強の仕方や、当日の試験会場の雰囲気、試験問題、面接内容などを詳しく教えてくれます。

5 くつろぎと学びのキャンパスライフを目指して

大学院生の学習をサポートし、研究・学習に専念できる環境を整えています。院生専用の研究室として、図書館の隣にゆったりとしたスペースが確保されています。個々人に貸与する自習机と共有のパソコンがあり、学習はもちろん、学習の合間に休憩できるスペースにもなっています。また、研究室の側に施錠できるロッカーが貸与され、資料などの私物や上着を収納することができます。この他、コピー費の補助、独自の奨学金制度などがあります。

修士論文の研究テーマ（2023～2024年度）

- ●認知症家族介護者の心理社会的ニーズとその理解に向けて
- ●小学校教員における援助要請意図とその関連要因
- ●関わりを求める「気になる子ども」の集団への参加過程 ―保育園児の行動と保育士による支援に着目して
- ●家族への援助要請はどのように行われているのか― 質的研究法を用いた探索的検討
- ●発症時期別にみた1型糖尿病患者のライフヒストリーと望まれる心理的支援について
- ●大学生のSNSを用いた メンタルヘルス・ファーストエイドに関する研究
- ●女子学生からみたスクールカウンセリング活動に対する課題 ―スクールカウンセラーを利用するまでのプロセスに着目して
- ●女性の攻撃行動とストレスコーピング方略の関連の検討
- ●複線径路等至性アプローチによる 家庭犬との関係性に関する質的研究 ―アニマルセラピーとの関連を中心に
- ●ビブリオセラピーによる介入の 統合的葛藤解決スキルへの影響
- ●4つの先延ばしタイプにおいて自己概念の柔軟性が 完全主義認知に与える影響についての検討
- ●心理職を志す大学院生の 統合失調症患者に対する態度形成
- ●風景構成法における枠づけに対する主観的体験
- ●各段階における書き手の語りに着目して

大学院生の出身大学

本大学院生の出身大学は、本大学のみならずこれまでに、青山学院大学、秋田大学、跡見学園女子大学、いわき明星大学（現：医療創生大学）、岩手大学、大阪芸術大学、大妻女子大学、桜美林大学、香川大学、学習院大学、金沢大学、京都ノートルダム女子大学、共立女子大学、慶應義塾大学、駒澤大学、相模女子大学、実践女子大学、首都大学東京（現：東京都立大学）、上智大学、昭和女子大学、白百合女子大学、聖心女子大学、成蹊大学、聖徳大学、専修大学、創価大学、大正大学、筑紫女学園大学、中央大学、帝京大学、東海大学、東京学芸大学、東京純心女子大学（現：東京純心大学）、東京女子大学、東京成徳大学、東北大学、東洋英和女学院大学、長崎大学、新潟大学、新潟青陵大学、日本女子大学、日本大学、福岡県立大学、文化学園大学、文教大学、法政大学、放送大学、宮城学院女子大学、武蔵野大学、明治学院大学、目白大学、山梨大学、立正大学、ルーテル学院大学、和光大学など幅広く、社会人や他学部出身の方も在籍しています。大学院生活も和気藹々と相互に研鑽しあって充実しています。

サポートプログラム

駒沢女子大学臨床心理学研究会

駒沢女子大学臨床心理学研究会では、公認心理師・臨床心理士として必要な専門知識・技術の修得と、互いの研鑽による向上を目指して毎年1回、学内外の先生をお招きして研究会を開催します。例年、研究会と併せて懇親会も開催され、学年を越えての交流が持たれています。
2022年度（オンライン開催）：午前の第Ⅰ部では、田中教仁先生より、「司法領域における臨床の実際―面会交流事件における支援」とのテーマでご講演いただきました。午後の第Ⅱ部は、架空事例を素材とした検討やグループ・ディスカッションにより、午前中の学びをさらに確かなものとしました。
2023年度（対面開催）：齊藤和貴先生より、「ひきこもり支援に向けて」とのテーマでご講演と模擬事例を用いたワークを行っていただき、実践的な学びの機会を得ました。
対面開催には直に交流し、忌憚なく意見交換をしたり親交を深めたりできる良さがありますし、オンライン開催には、住まいが遠方であったり子育て・介護中であったりしても参加しやすいメリットがあります。どちらのメリットも考慮しながら、充実した研修機会となる開催方法について、今後も検討していきます。なお、この研修会は臨床心理士資格更新のための研修機会ともなっています。

駒沢女子大学臨床心理学研究会について

OG幹事会の2代目会長、10期生の武山です。現在は横浜市西部地域療育センターで働いています。2016年度までOGによって運営されてきた卒後研修会と、在学生を中心に行われてきたワークショップを発展的に統合し、駒沢女子大学臨床心理学研究会が誕生しました。研究会は、修了生が初心に返って自分の臨床を見つめられる場所、先生方に相談できる機会、現場で活躍している修了生と心理職を目指して勉強中の大学院生が交流できる場です。また、この研究会は、臨床心理士の資格更新に係る研修会として承認された実績があります。今後、より一層盛り上げていけるよう、運営していきたいと思っています。

公認心理師試験・臨床心理士資格審査対策

公認心理師・臨床心理士になるためには、修士課程で所定の科目を履修し、さらにそれぞれ年に1回の国家試験（筆記試験）、資格審査（筆記試験+面接試験）に合格しなければなりません。
本学では、両筆記試験の対策として、外部模擬試験を学内で実施し、受験料を全額負担しています。学内実施により、本番さながらの環境で対策に集中できる利点があります。
臨床心理士資格審査の2次試験（口述面接試験）では、基本的な姿勢や態度、人間関係能力が問われます。本学では、希望者を対象に学内模擬面接を実施し、教員や先輩から質の高い指導を受けられる体制を整えています。
また、その年度の資格試験に合格した先輩から勉強方法のアドバイスを受けられる合格者報告会（p.2）も行われています。

駒沢学園心理相談センター

心理相談センターは、本学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻の大学院生が学ぶ学内実習機関であると同時に、地域に開かれた「こころの相談」のための専門機関です。公認心理師・臨床心理士の資格を有する本学教員や大学院修了後の研修相談員などが相談を担当します。大学院生は1年次後期からインテーク面接に陪席し、インテーク・カンファレンスの資料なども作成します。また、指導を受けながらケースを担当します。
心理相談センターでは、子どもから大人までを対象に、子どもの遊戯療法や家族の相談・援助、大人のカウンセリングを行っています。具体的には、子どもの情緒障害や発達の遅れ、大人の不安やうつなどのメンタルな問題、人間関係や家庭内の問題、子育ての問題などの相談に応じています。また、必要に応じて性格検査、知能検査、発達検査などの心理検査も行っています。さらに、地域の方々を対象とした、子育てをより楽しむための「育児ストレス予防プログラム」なども実施しています。

◎心理相談センター主催セミナー

心理相談センターでは毎年度、地域の方を対象とした公開セミナーを開催しています。2024年度は「『SOS』の出し方、受け止め方、気付き方」を年間のテーマとして、第1回セミナー「家庭における子どもSOSについて考える―非行と家族の司法臨床から」、第2回セミナー「地域におけるSOSの意味について考える―「助け合い」の心理学序説」が行われました。詳細については、駒沢学園心理相談センターのホームページでご確認ください。

教員一覧

専任教員

<専攻主任>藤城 有美子
（公認心理師　臨床心理士）
教授、博士(医学)

[担当科目] 臨床心理学特論Ⅱ　臨床心理面接特論Ⅱ　心理療法特講D（心理支援に関する理論と実践Ⅲ）　臨床心理基礎実習Ⅱ　臨床心理実習ⅠA･B･C･D（心理実践実習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ）　臨床心理実習ⅡA･B･C･D　臨床心理学研究実践Ⅰ･Ⅱ
[主な臨床領域または専門分野] 医療領域　青年期・成人・高齢者
[主な臨床技法] 精神力動的アプローチ（精神分析的心理療法・その他）
[研究課題] 力動的観点による心の理解、障害者・慢性疾患患者の心理、生徒・学生の再適応支援、地域メンタルヘルス、健康サービス、健康行動

飯田 敏晴
（公認心理師　臨床心理士）
准教授、博士(心理学)

[担当科目] 心の健康教育に関する理論と実践　臨床心理面接特論Ⅱ　臨床心理査定演習Ⅰ･Ⅱ　臨床心理基礎実習Ⅱ　臨床心理実習ⅠA･B･C･D（心理実践実習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ）　臨床心理実習ⅡA･B･C･D　臨床心理学研究実践Ⅰ･Ⅱ
[主な臨床領域または専門分野] 医療領域、多文化カウンセリング
[主な臨床技法] チーム／コミュニティアプローチ、臨床心理アセスメント
[研究課題] 助け合い（援助要請／援助行動）、長期療養支援、多文化カウンセリングコンピテンシー

齊藤 和貴
（公認心理師　臨床心理士）
講師、博士(人間学)

[担当科目] 心理療法特講C（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）　臨床心理基礎実習Ⅰ･Ⅱ　臨床心理実習ⅠA･B･C･D（心理実践実習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ）　臨床心理実習ⅡA･B･C･D
[主な臨床領域または専門分野] 福祉領域
[主な臨床技法] 認知行動療法／集団支援
[研究課題] ひきこもり当事者や家族、支援者への有効な支援の探索

藤川 麗
（公認心理師　臨床心理士）
教授、博士(教育学)

[担当科目] コミュニティ・アプローチ特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）　臨床心理基礎実習Ⅰ･Ⅱ　臨床心理実習ⅠA･B･C･D（心理実践実習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ）　臨床心理実習ⅡA･B･C･D　臨床心理学研究実践Ⅰ･Ⅱ
[主な臨床領域または専門分野] 教育領域（学生相談）　子育て支援
[主な臨床技法] 認知行動療法　コミュニティ・アプローチ
[研究課題] 臨床心理職と異職種とのコラボレーション（協働）による臨床心理実践の研究、育児ストレス・マネジメントプログラムの開発

丸山 慎
教授、博士(教育学)

[担当科目] 認知心理学特講　臨床心理学研究実践Ⅰ･Ⅱ
[主な臨床領域または専門分野] 認知心理学　発達心理学　生態心理学
[研究課題] 乳幼児の認知的発達、芸術と心理、身体と心の関係

依田 尚也
（公認心理師　臨床心理士）
講師、博士(心理学)

[担当科目] 心理療法特講B（芸術療法）　臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）･Ⅱ　臨床心理基礎実習Ⅱ　臨床心理実習ⅠA･B･C･D（心理実践実習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ）　臨床心理実習ⅡA･B･C･D　臨床心理学研究実践Ⅰ･Ⅱ
[主な臨床領域または専門分野] 医療領域　教育領域
[主な臨床技法] 治療的アセスメント（対話を重視した協働的な心理アセスメント）
[研究課題] 心理アセスメントにおける「対話」の治療的意義

綾城 初穂
（公認心理師　臨床心理士）
准教授、博士(教育学)

[担当科目] 臨床心理学特論Ⅰ　臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）　学校臨床心理特講（教育分野に関する理論と支援の展開）　臨床心理基礎実習Ⅱ　臨床心理実習ⅠA･B･C･D（心理実践実習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ）　臨床心理実習ⅡA･B･C･D
[主な臨床領域または専門分野] 教育領域（教育相談・教員へのコンサルテーションなど）
[主な臨床技法] プレイセラピー　ナラティヴセラピー
[研究課題] ディスコース分析（特にポジショニング理論）による心理支援過程の理解、学校の対立問題解消に資するナラティヴアプローチの開発

奥野 真之
講師、博士(学際情報学)

[担当科目] 認知心理学特講　臨床心理学研究実践Ⅰ･Ⅱ
[主な臨床領域または専門分野] 知覚心理学　実験心理学　生態心理学
[研究課題] 映像視聴を支える情報と知覚について

田中 教仁
（公認心理師）
准教授、修士(社会福祉学)

[担当科目] 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開　家族心理学特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ）
[主な臨床領域または専門分野] 司法・犯罪心理学　家族心理学
[主な臨床技法] ナラティヴ・アプローチ
[研究課題] 非行臨床における少年の立ち直り支援、犯罪被害者支援、離婚や親権の帰すう等を巡る問題を抱える家族への援助

冨士原 光洋
教授、修士(文学)

[担当科目] 心理学研究法特講　臨床心理学研究実践Ⅰ･Ⅱ
[主な臨床領域または専門分野] 認知心理学
基礎心理学（記憶、言語）
[研究課題] 言葉の使用に関する認知過程の解明

非常勤教員

稲吉 玲美
[担当科目] 臨床心理学研究法特講

織田 邦彦
[担当科目] 心理療法特講A（遊戯療法）

笠原 千秋
[担当科目] 臨床心理基礎実習Ⅰ

小林 玄
[担当科目] 障害者心理学特講（福祉分野に関する理論と支援の展開）

関 真粧美
[担当科目] 人格心理学特講　異常心理学特講

竹島 正
[担当科目] 精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

永房 典之
[担当科目] 社会心理学特講

割澤 靖子
[担当科目] 産業・労働分野に関する理論と支援の展開

駒沢女子大学 大学院
人文科学研究科
臨床心理学専攻（修士課程）

カリキュラム

必修科目

臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ
臨床心理面接特論Ⅰ
（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）・Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅰ
（心理的アセスメントに関する理論と実践）・Ⅱ
臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ
臨床心理実習ⅠA・B・C・D
（心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）
臨床心理実習ⅡA・B・C・D
臨床心理学研究実践Ⅰ・Ⅱ

選択必修科目

精神医学特講
（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
障害者心理学特講
（福祉分野に関する理論と支援の展開）
学校臨床心理特講
（教育分野に関する理論と支援の展開）
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
産業・労働分野に関する理論と支援の展開
心理療法特講A・B
C（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）・
D（心理支援に関する理論と実践Ⅲ）
家族心理学特講
（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
コミュニティ・アプローチ特講
（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）
心の健康教育に関する理論と実践
認知心理学特講
人格心理学特講
異常心理学特講
社会心理学特講
心理学研究法特講
臨床心理学研究法特講

■修了要件　2年以上在学し、必要単位（必修科目：22単位、選択必修科目：10単位、合計：32単位）を修得し、修士論文審査に合格すること。修士論文指導の教員は、本人の希望と研究テーマに基づいて専攻会議で決定します。
■学　　位　修士（心理学）
■取得資格　公認心理師：卒業した大学課程（学部）での単位取得科目が国の指定する要件を満たしており、かつ、大学院課程で指定の単位を取得して修了すると、公認心理師の国家試験の受験資格が得られます（2024年度からは年度内に修了見込みでの受験となりました）。
臨床心理士：本学は臨床心理士養成に関する第1種指定大学院なので、修了すると（公財）日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」資格試験の受験のための資格が得られます。〈（公財）日本臨床心理士資格認定協会指定の必修科目と選択科目を用意しているので、単位を取得すれば、「臨床心理士」資格試験の受験資格が取得できます。〉

時間割

2025年度　修士課程1年生　前期（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限 9:00～10:30	–	–	臨床心理面接特論Ⅱ＊	臨床心理実習ⅡA＊	認知心理学特講＊＊
2時限 10:40～12:10	–	臨床心理学特論Ⅰ＊	社会心理学特講＊＊	–	人格心理学特講＊＊
3時限 13:00～14:30	–	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）＊★	臨床心理基礎実習Ⅰ＊	臨床心理学特論Ⅱ＊	臨床心理査定実習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）＊★
4時限 14:40～16:10	–	家族心理学特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ）＊＊★		–	臨床心理学研究実践Ⅰ＊
5時限 16:20～17:50	–	–	–	–	–

【前期集中講義】産業・労働分野に関する理論と支援の展開、障害者心理学特講（福祉分野に関する理論と支援の展開）、精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）、臨床心理学研究法特講

2025年度　修士課程1年生　後期（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限 9:00～10:30	学外実習（教育分野）★	心理療法特講A＊＊	–	臨床心理実習ⅡB＊	臨床心理実習ⅠA（心理実践実習Ⅰ）＊★
2時限 10:40～12:10		心理療法特講B＊＊	–	心理療法特講C（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）＊＊★	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開＊＊★
3時限 13:00～14:30		学校臨床心理特講（教育分野に関する理論と支援の展開）＊＊★	–	コミュニティ・アプローチ特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）＊＊★	臨床心理査定演習Ⅱ＊
4時限 14:40～16:10		心理学研究法特講＊＊	–	–	臨床心理学研究実践Ⅰ＊
5時限 16:20～17:50		–	–	–	–

【後期集中講義】臨床心理基礎実習Ⅱ

＊…必修科目（必ず履修しなければならない科目）
＊＊…選択必修科目（興味・関心に合わせて選択する科目）
★…公認心理師受験資格を得るために必要な科目

講義の内容

授業科目名	講義等の内容
●臨床心理学特論Ⅰ 綾城 初穂	公認心理師・臨床心理士となる上で必要不可欠な専門職としての知識及び資質を培うことを目指す。臨床心理学の歴史、法律、理論、研究、実践領域、実践方法など、専門的な学習を行う上で前提となる知識を学ぶ。また、プレゼンテーションやディスカッションを通して、臨床心理学を実践・研究する上で基盤となる、適切な情報の集約や他者とのコミュニケーションの在り方についても修得する。
●臨床心理学特論Ⅱ 藤城 有美子	心理専門職としての将来の活動の土台を形成するために、本講の前半では、臨床心理学の実践面に目を向け、臨床心理面接の導入期からアセスメント、心理療法にいたるまでの過程で遭遇しやすい問題を、臨床分野や学派を越えて取り上げる。後半では、心理臨床活動における研究的アプローチについて扱っていく。各自が選んだ臨床心理学の先行研究、とくに調査研究の学術論文を検討の素材とし、背景理論の特質・意義・課題などを検討するとともに、臨床心理学研究における方法論とエビデンスについて理解を深める。
●臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ） 綾城 初穂	臨床心理面接の基本的な技能と態度を学習することを目的とする。特に本授業では社会構成主義的な視点も導入し、クライエントを孤立した個人として捉えるのではなく、さまざまな文脈の中に位置づく存在として捉え、クライエントと協働する臨床心理面接がどのように達成できるかについて学んでいく。また、多文化的な視点や学習者自身の省察も一貫して取り上げていく。
●臨床心理面接特論Ⅱ 飯田 敏晴 藤城 有美子	初回面接（受理面接）の前後で重要な事柄（守秘義務、インフォームド・コンセント、治療契約など）、初回面接の仕方、面接記録の書き方などについて、文献講読によって学ぶとともに、ロールプレイで体験的に学習する。
●臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） 飯田 敏晴 依田 尚也	臨床心理査定（アセスメント）は、人間の心理的特性を幅広く測定・評価するという点で、単なる病理診断とは異なる。心理的アセスメントの意義と基本的視点を学び、さらに心理的アセスメントとして用いられることの多い心理検査の中から、ウェクスラー式の知能検査を中心に理論と方法を修得する。また、心理に関する相談、助言、指導等への応用について学ぶ。
●臨床心理査定演習Ⅱ 飯田 敏晴 依田 尚也	臨床心理査定の実施とその解釈、所見のまとめ方を学ぶ。ロールシャッハ・テストを中心に、実施の方法、スコアリング、量的分析、継起分析を学ぶ。また、ロールシャッハ・テストの事例を通じて、病理の現われ方を学ぶ。さらにテスト・バッテリーを組むことによって、パーソナリティを多層的に捉えることについて学ぶ。また、得られた情報をクライエントにどのようにフィードバックするか、その実際を修得する。
●臨床心理基礎実習Ⅰ 藤川 麗 笠原 千秋	臨床心理面接法の基礎的理解と技能・技術を養うために、学内の心理相談センターの面接室を使用して、主としてカウンセリングのロールプレイングを行い、その逐語録を検討し臨床的態度や技能を身につける。さらに、グループ・カンファレンスで事例のより詳細な検討を加える。
●臨床心理基礎実習Ⅱ 綾城 初穂　飯田 敏晴 齊藤 和貴　藤川 麗 藤城 有美子　依田 尚也	学外実習への準備として、学内で行う臨床実習である。他大学院と合同で試行カウンセリング実習を行い、セラピスト体験やクライエント経験を通して臨床心理面接の基礎的な実践技能、心理査定に関する知識と技能、ケース・マネジメントに関する技能、職業倫理・法的義務について理解を深める。
●臨床心理実習ⅠA・B・C・D（心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ） 綾城 初穂　飯田 敏晴 齊藤 和貴　藤川 麗 藤城 有美子　依田 尚也	臨床現場で必要とされる高度な実践力を養うために、臨床心理実習ⅠA・B・C（心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）ではそれぞれ教育分野、保健医療分野、福祉分野の機関で継続的な学外実習を行い、実習先での指導、および、小グループでのケース検討会において教員からの指導を受ける。臨床心理実習ID（心理実践実習Ⅳ）では駒沢学園心理相談センターで学内実習を行い、教員の指導の下、陪席やケース担当のほか、センター運営やアウトリーチについても実践的経験を積む。
●臨床心理実習ⅡA・B・C・D 綾城 初穂　飯田 敏晴 齊藤 和貴　藤川 麗 藤城 有美子　依田 尚也	院生が心理相談センターで陪席したインテークや、自分で担当したケース、学外実習における心理臨床活動について発表し、公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員からスーパービジョンを受ける時間である。発表や他の院生とのディスカッション、教員からのコメント等により、各自が臨床的理解を深め、インテーカーやセラピストとしての在り方を学び取っていく。

講義の内容

授業科目名	講義等の内容
●精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開） 竹島 正	精神保健とは、人間とその行動の理解を踏まえ、「共に生きる社会」の実現という理念のもと、社会におこるさまざまな問題の実態と関連する要因を明らかにしつつ、社会との協働によってその解決を図り、社会をよりよいものにしていく活動をいう。精神保健の歴史、考え方、地域実践を学び、受講者自身の精神保健についての考えを深め、自らの生き方や実践の素材とすることを目的とする。
●障害者心理学特講（福祉分野に関する理論と支援の展開） 小林 玄	近年の障害の捉え方や法律、制度を概観し、それぞれの障害特性を理解した上で、個々のニーズに即した支援の在り方を実例も交えながら考察していく。扱う障害は、肢体不自由、視覚障害、知的障害等の他、近年、医療や心理教育相談の場で扱うことが多くなった発達障害について、主訴から支援方針の立案までを詳説する。学校、相談室、医療機関で用いることの多い知能検査や認知発達検査についても言及し、現場に出たときの実践力にもつなげていく。
●学校臨床心理特講（教育分野に関する理論と支援の展開） 綾城 初穂	教育領域に関係する知見や諸問題を、心理学的な観点から学ぶ。具体的には、教育心理学や発達心理学に関する知見や発達障害をはじめとする臨床心理学的知見に加え、いじめや不登校といった学校で生じる諸問題の理解や考えられる対応について学びを深める。対応については、いくつかの臨床心理学的理解に加え、主にナラティヴセラピーに基づく考え方を扱う。
●司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 田中 教仁	少年事件では、家庭裁判所調査官の社会調査や少年鑑別所の資質鑑別により非行の科学的分析が行われる。一方、刑事事件でも、応報的な罰だけではなく、犯罪に至った人の社会的な躓き、発達上の課題等を踏まえて適切な援助をする「治療的司法観」が世界的に広がっている。そのような状況を概観した上で、犯罪や非行のアセスメント、処遇、被害者への支援といった領域において、心理専門職が果たしうる役割について学んでいく。
●産業・労働分野に関する理論と支援の展開 割澤 靖子	産業・労働分野では、予測不能かつ多様な変化への対応を迫られ続ける個人と組織が心理援助の対象となる。支援に際しても、特定の支援モデルに即して対応することには限界があり、いかなる変化にも臨機応変に対応できるよう、個人と組織に即した支援を柔軟に展開することが求められる。本講義では、産業・労働分野における基礎的な理論や法律の知識を修得することを第1の目的とする。そして、本領域で求められる柔軟な心理援助の在り方について、企業における心理援助の実際に触れながら、実践的に考える力を身につけることを第2の目的とする。
●心理療法特講A（遊戯療法） 織田 邦彦	プレイセラピー（遊戯療法）を理解するために、子どもによくみられる問題や症状、子どもの問題や症状を理解するために役立つ発達理論を学んだ上で、本にのっている実際のプレイセラピーの事例について興味を持った事例を各自発表し、全体でディスカッションを行う。さらに、プレイセラピーの実際の感覚に近いものを味わうために、プレイセラピーの演習を行う。また、プレイセラピー同様に、教育相談機関などで用いられている箱庭療法についても、グループで箱庭を制作する。
●心理療法特講B（芸術療法） 依田 尚也	絵画療法を代表とする芸術療法について学び、心理療法における非言語的なアプローチ、および、その適応と注意点について理解する。また、受講生同士で各技法を試行し合うことで、芸術療法におけるクライエント−セラピスト関係の重要性について体験的に学ぶ。さらに、芸術療法に関する事例論文を読み込み、その臨床的意義と限界についても検討する。
●心理療法特講C（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）（認知行動療法） 齊藤 和貴	認知行動療法（CBT）について学ぶ。公認心理師や臨床心理士は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野などの様々な現場で働いているが、エビデンスに基づく介入や支援を求められる機会が増えている。また、クライエントへの直接的な支援だけでなく、予防や支援者への支援といった面で心理職が求められる役割も大きくなっている。こうした背景から、CBTについての知識やスキルは幅広い現場でのニーズが高い。本講義では、CBTの基本となる考え方やスキルの理解を深め、臨床場面において活用できるようになることを目標とする。
●心理療法特講D（心理支援に関する理論と実践Ⅲ）（精神分析的心理療法） 藤城 有美子	この講義は演習形式で行い、精神分析的心理療法の概略と、そのために必要な基礎知識を身につけ、ケースを精神分析的に理解できるようになることを目標とする。精神分析的な治療とは、第一にはフロイトが創始した精神分析の実践を指すが、わが国の臨床分野での実践形態としては、より幅広い応用が含まれている。ケースおよびセラピスト自身の内面を深く理解し、それを治療に活用していくことは、心理療法を進めていく上で非常に有用である。

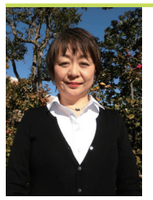
授業科目名	講義等の内容
●家族心理学特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ） 田中 教仁	家族心理学の知見は、医療、福祉、教育、司法などさまざまな実践領域で活用されている。これは、家族全体を援助の対象とするだけでなく、個人を援助していく上でも、家族という要素を切り離して考えることが難しいことを示しているといえよう。本講義では、個人や家族が直面する諸問題の理解と援助方法について、精神分析的力動論、家族システム論などさまざまな立場の理論を紹介し、夫婦の危機（離婚、DV）、児童虐待、高齢者虐待、犯罪・非行などについて、適宜臨床素材を用いて検討を深めていく。
●コミュニティ・アプローチ特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ） 藤川 麗	集団や地域社会に働きかける心理学的援助に関する理論と方法として、グループ・アプローチとコミュニティ・アプローチの基本的理論と技法を学ぶ。まず、グループ・アプローチの歴史と発想を学び、代表的なグループ・アプローチの1つとしてソーシャル・スキル・トレーニングを体験する。次に、コミュニティ・アプローチの歴史と発想を学び、危機介入法、コンサルテーション、多職種間の連携・協働といった方法をロールプレイやグループワークを通して体験的に学習する。
●心の健康教育に関する理論と実践 飯田 敏晴	心の健康に関する知識普及を図るための教育、情報提供の方法を学ぶ。心の健康教育の目的の一つに、「心の健康に関する問題を予防するとともに、健康行動を促進し、健康な状態を維持するために有効取り組み、特定の疾患に対する検診や受療、他者へ助けを求める行動の促進、さらには当事者への偏見や差別の解消を図っていくこと」が挙げられる。授業では、その実現のための理念、理論、技法等を学び、実際にプログラムを企画し演習として実行する。
●認知心理学特講 奥野 真之 丸山 慎	人間の認知のメカニズムを包括的に理解するためには、脳や中枢神経系の成熟・変化について知るだけではなく、身体と認知の関係および人間が遭遇する多様な環境との相互的（ないし相補的）な関係のダイナミクスについても知る必要がある。本講義では、とくに近年の認知科学における「身体性認知」、「生態学的心理学」などのアイディアに焦点をあて、“こころの動き”の本質にアプローチする方法について、改めてラディカルな視点から議論していく。
●人格心理学特講 関 真粧美	人格理解のための理論について学ぶ。授業では最初に、類型論、特性論、精神分析的人格理論、行動主義的学習理論、人間性理論といった、主要な人格理論について講義する。その後はテキストを用いて、精神分析的な人格理論の理解を深める。精神力動的理解の基礎となる知識を身につけることで、心理療法、および心理査定における人格理解の一助となることが講義の目的である。
●異常心理学特講 関 真粧美	臨床心理学の実践および研究における心理的問題や精神病理について理解する。特に、力動的な視点を援用し、クライエント本人の主観的な苦痛の体験についての理解を深める。症状名や診断名という切り口からだけでなく、当事者の主観的苦痛を想像し理解しようとする姿勢を身につけるためには、自分自身の主観を観察し、言語で表現できるようになることを重視する。
●社会心理学特講 永房 典之	臨床場面では、自己の性格、対人関係の悩み、集団内または集団間の葛藤、異文化への不適応といった問題が考えられる。また、このようなこころの問題やカウンセリングでは、自己の「感情」へのアプローチが重要な役割を果たすと考えられる。本講義では、自己の感情を専門的に学びつつ、社会心理学の基礎・応用的理解を目指す。また、社会心理学では、実験や調査などの実証的研究知見が多いことから、受講生自身の研究、修士論文作成に向けた調査票作成・統計処理やそのまとめ方の指導も行う。
●心理学研究法特講 冨士原 光洋	臨床心理学研究に用いられる観察法と質問紙法の理論と技法について講述する。観察法では、参加観察法、アクションリサーチの研究事例をあげ、その有効性と問題点を明らかにし、調査法では、質問紙のワーディングの影響による回答の異なりやサンプリングなどの問題を取り上げ、実践的技法について検討する。
●臨床心理学研究法特講 稲吉 玲美	「こころ」の問題に対する援助活動を行っていく者に求められる重要な社会的責務の一つに、援助を求める人に対して確かな知識や技術的なかかわりを提供することがあげられる。この責務を果たすためには、臨床心理学的研究活動を行い、確かな知識や技術的なかかわりを裏づけるデータを積み上げる態度が求められる。そこで本講義では、臨床心理学研究に関する基本的な知識を学ぶことを通して、「こころ」の多様なありようを科学的視点から捉える力を養い、それらを実践の場に還元していく可能性を考える力を培うことを目的とする。

※年度によって開講しない科目もあります。

駒沢女子大学 大学院
人文科学研究科
臨床心理学専攻
（修士課程）

先輩の声

保健医療、福祉、教育、産業・労働、司法・犯罪、私設心理相談など、多方面で活躍しています。



心理療法専門機関で深く、じっくりと。

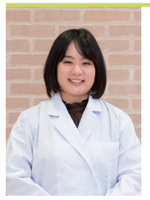
2009年度修了　若山 須賀子さん

心理療法の専門機関で働いています。個人心理療法を中心としながら、家族への心理教育や社会適応に向けた環境調整なども行います。提携する精神科クリニックからの紹介も多く、人間関係、家族関係に関する一般的な相談から、うつ病、パニック障害、発達障害、人格障害など、さまざまな精神障害に関する臨床的相談まで、援助対象はさまざまです。責任は大きいですが、構造化された心理面接が保証され、継続的な治療的面接ができる点で、大変やりがいのある仕事です。

精神科病院で患者さんと向き合う。

2012年度修了　齋藤 由華さん

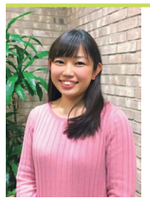
私は、精神科病院の心理職として働いています。日々、カウンセリングや心理検査をさせていただくなかで、自分の未熟さを知り、技術を磨かねばと感じることも多くあります。とはいえ、患者さんとの出会いは一期一会です。知識や経験を有効に活用し、相手のために学んだ専門性を最大限に活かしていくことが心理専門職者として大切なことだと考えています。そのためには病院内の他職種のスタッフとの協働が不可欠であると、現場に出ることで痛感するようになりました。覚えることが多く、大変なこともいろいろとありますが、院生時代の実習や講義が改めて活かされていると感じる毎日です。学んだことや経験が実となるように、研鑽を続けていきたいと思います。



司法と保健医療がつながる領域で。

2014年度修了　山口 まりこさん

現在、私は医療観察法病棟に勤めています。患者さんは、過去に心神喪失・耗弱の状態で他害行為を行い、裁判所によって治療が必要と判断された方々です。私が担当するのは、グループ療法、個人面接、心理検査、地域の関連機関とのカンファレンスです。治療では、他職種と連携して患者さんの個別性を重視した支援となるよう努めていくことにやりがいを感じています。大学院時のゼミや病院実習での経験は現在の業務に活かせることが多く、とても役立っています。今後も研鑽を積んでいきたいと思います。



県の心理職として幅広い支援を。

2015年度修了　細川 沙弥さん

院での生活は、幅広い知識と経験を持つ先生方のもとで学び、ボランティアにも参加してとても充実していました。他職種との連携や協働について学ぶ機会も多く、院での学びが現場で活かされています。現在は県の心理職として、地域に密着した多様な仕事を行っています。個人の生活に密接に関わるのだということを忘れず、周囲と連携して支援に携わりたいと考えています。また、私の目標である「クライエントを様々な角度から捉え、あらゆる支援ができる心理専門職者」を目指し、日々研鑽に励んでいきます。

多職種連携で寄り添い、支えていく。

2016年度修了　鈴木 亜里沙さん

母子生活支援施設で心理職として働いています。支援施設を利用している母子には、背景に虐待、精神疾患、経済的困窮、DV等の複合的な問題があったり、育児にさまざまな課題を抱えている方も多くいらっしゃいます。その中で、面接の必要なお母さんと定期的にお会いし、子どもへのプレイセラピーを行うなどの心理的サポートをするのが私の仕事です。日常生活における関わりも多いため、多職種で日々話し合いながら、母子の生活を支えています。大学院で勉強してきたことや、実習での経験を活かしながら日々の支援に繋げています。今後も研鑽を積んでいきたいと思います。

子どもと保護者に切れ目ない支援を。

2020年度修了　不老 百合香さん

自治体における子どもの相談を一元的に支援することを目指している施設で、教育相談を担当しています。大学院時代、教育・医療・福祉それぞれの実習で、さまざまな背景をもつ子どもたちと関わり、子どもや保護者への心理的支援に対する関心を深めていきました。現在の職場では、福祉と教育の複合的な視点から子どもの支援を検討することもあり、多職種と連携しながら日々新たな視点を得ています。今後も大学院での学びや経験を活かし研鑽していきたいです。

修了生の進路、就職先

【修了後1年目】医療保健分野27.7%、福祉分野29.8%、教育分野48.9%、司法・犯罪分野2.1%、産業・労働分野0%、私設心理相談・大学附属心理相談施設等23. 4%、大学・研究所等2.1%、その他4.3%
【現在】医療保健分野23.4%、福祉分野31.9%、教育分野42.6%、司法・犯罪分野0%、産業・労働分野6.4%、私設心理相談・大学附属心理相談施設等10.6%、大学・研究所等6.4%、その他4.3%

2024年度「第2回修了生アンケート」結果より（複数勤務あり）

年間スケジュール

4月
入学式
新入生歓迎会

5月
指導教員決定（1年次）
臨床心理実習ⅠA（心理実践実習Ⅰ）報告会（学外実習：教育分野）（2年次）

6月
臨床心理士資格試験外部模試
修士論文研究：分析・考察（2年次）

7月
修士論文構想発表会（1年次）

8月
夏季院生自主勉強会

9月
諸学会への参加

10月
臨床心理士資格審査模擬面接：2次試験
修士論文予備審査会（2年次）

11月
駒沢女子大学臨床心理学研究会
修士論文研究：予備審査結果を踏まえての再検討

12月
修士論文提出（2年次）
修士論文公開審査会（2年次）

1月
臨床心理実習ⅠB・C（心理実践実習Ⅱ・Ⅲ）報告会
（学外実習：保健医療分野・福祉分野）
公認心理師試験外部模試

2月
公認心理師試験・臨床心理士資格審査合格者報告会
春季院生自主勉強会

3月
公認心理師試験（2年次）
修了生を送る会
修了式・学位授与
謝恩会（先生と修了生とのお別れ会）